

第2期若狭町総合戦略KPI 一覧

総合戦略の体系			評価指標											【内部評価】A 順調 B 遅れ気味だが達成可能 C 改善が必要		【外部評価】A 順調 B 概ね順調 C 遅れている		
基本目標	施策	実施施策	KPI	単位	積算	2018		目標年度	目標値	2020		2021	2022	2023	2024	内部評価	内部評価についての説明	外部評価
						基準年度	基準値			R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績				
I 活力を育む交流を拡大する	(ア)魅力ある観光地づくり		観光入込客数	人	単年	H30	1,833,000	R6	2,100,000	1,702,800	1,628,300	1,837,200				B	レインボーライン山頂公園と熊川宿の割合が大きい。新型コロナウイルス感染症の影響により基準値より落ち込んでいたが、令和4年度で大きく持ち直した。山頂公園、熊川宿ともに施設を更新しており、入込客数は増加傾向にある。首都圏や北陸新幹線沿線地域へ向けた積極的なPRを行っていく必要がある。	B
		①三方五湖の周辺整備・活用	イベント集客人数	人	単年	H30	42,744	R6	45,000	1,000	2,800	11,059				C	KPIを設定した時点では、若狭町まつり、名水まつり、いっぶく時代村なども含めていたが、令和4年度では開催されていないため、想定より低い。令和5年度より、いっぶく時代村が復活し、計上される。基準値に対して若フェスは若狭町まつりに比べ半分以下。新型コロナウイルス感染症の影響も考えられる。民間主体の若フェスは実施体制が整っておらず、町外からの集客に繋がるような観光イベントになっていない。	B
		②熊川宿を活用した交流人口拡大	広域連携のPRイベント開催数	件	単年	H30	1	R6	2	2	1	1				B	イベント「鯖街道の日」はコロナ禍でも継続して実施している。令和5年度よりいっぶく時代村が復活し、目標値の2に回復する。熊川宿の空き家を活用した新規出店事業者の増やし地域の活性化を図っていく必要がある。	B
		③ヘルスツーリズムの推進	若狭三方五湖ツアーデーマーチ参加者数	人	単年	H30	2,916	R6	3,000	コロナ中止	コロナ中止	2,571	3,211			A	令和4年度はコロナの影響も残り、基準値を下回る。令和5年度はより集客性を高めたイベントにリニューアルし、目標値を超えた。 ※リニューアルポイント ・ロゴ等イメージの変更を行い、広告物全体の見直し ・WEBサイトやSNSを開設して、活用した広報活動の実施 ・会場内イベント「マーチとマルシェ」の実施(音楽ステージや飲食販売等) ・SDGsを意識してできる限り廃棄を減らす試みや、誰もが参加しやすい「インクルーシブコース(土曜の5km)」を設置。	B
		④体験型観光の充実	教育旅行での体験学習受入人数	人	単年	H30	3,556	R6	3,800	624	621	2,550				C	宿泊施設の減小に伴い大きい学校の受け入れが困難になっている。	
	(イ)歴史的資源を活用したまちづくり	①熊川宿保存整備の促進	重伝建建物保存整備の実施数	件	累積	H30	113	R6	123	116	117	119				B	概ね計画どおり。主屋の修理・修景は2巡目に入ってきている。	
		②三方五湖の自然・文化遺産の活用	縄文博物館体験講座など参加者数	人	単年	H30	2,949	R6	3,200	2,599	3,188	2,371				C	目標値を達成しかけた令和3年度は、コロナ禍で県内の小中高校の校外学習・修学旅行先が県内限定となり、例年以上の来館者・体験講座利用者数があった。令和4年度は修学旅行先も県外に戻ったため、前年度比で大きな落ち込みとなっている。子ども数の減少と校外学習の件数そのものが減少で目標値達成は、厳しい状況であるが、県内学校への冬の営業活動も予定しておりPRに努める。	B
		③古墳群の保存整備と活用	古墳の保存調査数	件	累積	H30	0	R6	1	1	3	4				A	令和2年度～令和4年度 西塚古墳(脇袋)、上ノ塚古墳(脇袋)、下船塚古墳(日笠)、糠塚古墳(脇袋) 令和5年度 西塚古墳(脇袋)、上ノ塚古墳(脇袋) 令和6年度 上ノ塚古墳(脇袋)	
	II 次世代の活動環境を創造する			町外からの移住者数	組	累積	H30	35	R6	50	51	59	73			A	目標値を超えているが、更なる移住促進策を展開していく。若狭町の特徴である子育て環境は特にPRしていく。	A
	(ア)魅力ある雇用の創出と担い手育成	①起業家への支援	地域おこし協力隊の受入数	人	累積	H30	7	R6	10	7	8	8	9			B	令和4年度末時点で、現役の地域おこし協力隊は2名。地域課題の解決や地域の活性化を図るための活動を行っている。卒業生7名のうち6名が若狭町に定住している。	
②就業者への支援		新たな創業・業務拡大	件	累積	H30	5	R6	8	9	13	21				A	新たな支援制度※を創設し、中小企業への創業・業務拡大支援を増やしている。 ※スタートアップ支援補助金 250万円	B	
③地域産業のイメージアップ		新たな企業誘致数	件	累積	H30	3	R6	5	3	3	4				B	誘客による地域経済の活性化を図れるよう、地域経済活性化協議会で民間事業者の誘致方針を定め取り組んでいる。ターゲットはサービス業・IT企業。		
(イ)未来を担う人材の育成	①都市部との繋がりづくり	東京若狭会の開催数	回	単年	H30	4	R6	5	2	1	1				C	KPI設定前と前提条件が変わり目標達成は難しい状況。 ※KPI設定前は町職員を東京の団体に派遣し、在住していたが、現在は派遣していない。		
	②ソーシャルビジネス人材育成	若者による地域活性化の取り組み件数	件	累積	H30	2	R6	5	7	8	8				A	社会全体の幸せを考えるソーシャルビジネスカレッジでは毎年、町内外から約10名ほど受講し、現在まで3件ビジネス化した。熊川宿を中心に若者による地域活性化の取り組み(ビジネス化)を3件支援した。	A	
	③地域の人材育成	都市部からの1ターン者数	人	累積	H30	19	R6	25	25	28	34				A	目標値を超えているが、更に、都市部に向けPR等を展開していく。		
(ウ)快適で住みやすい生活環境	①空き家の有効活用	空き家活用件数	件	累積	H30	25	R6	35	35	46	56				A	空き家バンクの認知が進み、空き家バンクへの登録が増える一方、空き家の需要も高く、想定より高い水準で空き家の活用が進んでいる。	A	
	②シェアリングエコノミーの推進	移住体験住宅	件	累積	H30	0	R6	5	1	3	4				B	空き家活用の一つとして、年1棟程度の改修が進んでいる。		
III 地域の力を高める			地域の拠点づくりへの支援	件	累積	H30	2	R6	3	2	5	5			A	各種団体から地域活性化に取り組む提案があり、目標を上回る数の拠点づくりを支援した。ふるさと茶屋3件、山内かぶら、伊良積、ほっとむら。	A	
(ア)地域活動の活性化と支え合い	①地域づくり協議会との協働	リーダー育成研修実施数	回	単年	H30	0	R6	4	0	1	2				B	SDGs研修を実施した。		
	②集落活性化に向けた取り組み	原材料支給事業実施数	件	累積	H30	177	R6	227	195	208	225				A	集落が自らの力で集落を良くするために必要な原材料費の助成事業を行っているが、集落側の需要が高く、想定を上回る申込件数があり、目標値を超えることは確実。自らの集落を自らの手で良くしていくという気持ちも醸成されている。	B	
	③景観づくりの推進	トレイルルート整備数	件	累積	H30	0	R6	5	4	11	11				A	11ルート整備し完了した。		
(イ)地域で支え合う共生社会づくり	①地域包括ケアの仕組みづくり	支え合い仕組みづくり検討会の設置数	件	単年	H30	4	R6	11	6	8	7				C	地域支え合い推進交付金を新設し、地域支え合い活動実施中の地区は、みそみ・明倫・鳥羽・瓜生・熊川・野木・気山。三宅地区はR1～R3活動実施、R4・5活動なし。地域住民主体の活動として継続されることが重要。地域の自主的な活動を支援する人材が求められている。		
	②住民の主体的な健康づくりの推進	集落での健康づくり活動実施数	集落	単年	H30	3	R6	42	2	14	38				B	健康づくり事業を実施する集落数は増加傾向にある。更に、保健推進員や集落の方の健康意識を高めていく必要がある。	B	
	③自立した暮らしのできる地域づくり	医療的ケア児支援の協議の場の設置数	箇所	累積	H30	0	R6	1	0	0	1				A	健康医療課・子育て支援課・福祉課で要支援児童検討会を設置。月1回開催している。医療的ケア児のみでなく、発達遅滞や要支援家庭等、要支援児童について情報共有・検討を行う。		

総合戦略の体系			評価指標											【内部評価】 A 順調 B 遅れ気味だが達成可能 C 改善が必要	【外部評価】 A 順調 B 概ね順調 C 遅れている	
基本 目標	施 策	実施施策	KPI	単位	積算	2018			2020	2021	2022	2023	2024	内部 評価	内部評価についての説明	外部 評価
						基準年度	基準値	目標年度	目標値	R2実績	R3実績	R4実績	R5実績			
IV 若い世代が住みたくなる地域をつくる			若狭町が住みやすいと思う割合	%	単年	H29	81.3	R6	82	-	73.6	-	-	C	総合計画策定時に住民の皆様から事前にアンケートをとるものであるが、目標値に対して未達であった。今後は各種施策により住民の満足度を上げていく必要がある。	C
(ア)安心できる子育て環境づくり		①子育て・教育環境の充実	教育コンピューター1台あたりの児童・生徒数	人	単年	H30	2.8	R6	1.0	1	1	1		A	小中学生に1人1台のタブレットを配布し、目標達成	A
		②気がかりな子への支援体制づくり	子育て支援センター実施箇所数	箇所	単年	H30	3	R6	3	3	3	3		A	子育て支援センター実施箇所数3(パレア内、リブラ内、梅の里保育園内)を維持	
(イ)生活をつなぐネットワーク		①情報ネットワークの充実	CATV通信網の光回線化率	%	累積	H30	50	R6	100	50	100	100		A	町内全域においてCATV通信網の光回線化が完了した。	B
		②広がる交通ネットワーク	デマンド利用人数	人	単年	H30	10839	R6	11,000	7,589	7,509	8,911		C	運賃値上げと新型コロナウイルス感染症の影響が重なり減少した。需要はあると思われるため、地道にPRを継続していく。	
V 若狭の資源で産業を元気にする			町内直売所等の販売額	千円	単年	H30	205,312	R6	210,000	137,779	151,134	204,034		B	ふるさと納税返礼品に出品していることもあり、順調に増加傾向にある。R5の食育・地産地消推進計画の策定を契機に、直売所等の活用について、広報で食育地産地消に関するコラム欄を設けてもらったり、若狭町HP、若狭町ラインやインスタ等で情報発信をしていく。	B
(ア)魅力ある産業の育成		①特産品の6次産業化の推進	6次産業を推進する新団体	団体	累積	H30	0	R6	1	コロナ 中止	1	1		A	町と熊川地区の民間企業(4社)の出資により株式会社クマツグが設立された。	A
		②若狭町ブランドの開発	6次産業を推進する新団体による新商品開発	件	累積	H30	0	R6	2	コロナ 中止	0	2		A	クマツグにより2商品(葛飴、山内かぶらマスタード)が開発された。R5以降は、若狭三方びんばれん(旧エコファーム)が飲料商品検討中:樽塾生ミニボトルと越前焼とコラボした商品。クマツグ(かぶらちゃん協力)が2品検討中(かぶらの葉でジュンペーゼ、かぶらのポタージュスープを商品化できないか)	
		③新規就農者の育成	新規就農者数	人	累積	H30	12	R6	17	16	17	17		A	新規就農者数は目標は達成したものの、まだまだこれから担い手が不足してくる。引き続き、新規就農者の確保を図る。就農者は水稲が多く、果樹(梅)の新規就農者の育成も必要。R5(三方地域1名)、R6(3名予定:上中地域2名、三方地域1名)、R7:上中地域3名予定。	